

老いも若きも共に生き、共に育つための知識と学びを

女子栄養大学 教授
一般社団法人日本応用老年学会 理事長
新開 省二



高齢まで現役で活躍した日本の多くの実業家も座右の銘としたと言われるサムエル・ウルマンの詩には、こんな一節が刻まれている。

ときには、二十歳の青年よりも六十歳の
人に青春がある。

年を重ねただけで人は老いない。理想を
失うとき初めて老いる。

(『青春』サムエル・ウルマン 作山宗久(訳)・
角川文庫より一部抜粋)

この詩が書かれたのは約100年前、彼は78歳でこれを書いたとされている。現代のわが国に目を転ずれば、元気なシニアが社会の行方を左右する主役の世代になりつつあると言っても過言ではない。自助、共助でお互いを支え合いながら、子育て世代とも、子どもたちとも、共に生き、共に日々を楽しむためには、元気シニアの知恵と力が不可欠である。シニア自身が自分たちの知恵と力を役立てるためにも、また、シニアの知恵と力を引き出し、さまざまな社会システムづくりや産業づくりを進めるためにも、ジェロントロジー（老年学）の知識が欠かせない。

日本応用老年学会は2006年に故・柴田博先生により設立された学会である。その重要な活動の一つにジェロントロジーの普及があ

る。ジェロントロジーには、加齢や老化の真の姿を知る、新しい医療・介護サービスや地域コミュニティの創出、高齢社会におけるビジネスの展開に必要な知識・技能などが含まれる。少子高齢社会の最前線を走る日本で、世代を超えて多くの人が支えあい、心豊かにいきいきとした人生を全うするためには、様々な学問分野の知識・技能がコラボする必要がある。それを具現化したものがジェロントロジーである。

学会ではその普及のために「検定試験」を行っている。同試験の公式テキストは、各界のエキスパートが執筆し、この一冊でジェロントロジーを広く学ぶことができる。人生百年時代、これからの生き方や暮らし方を自身で選んだり、人の役に立ち社会を活性化したり、ビジネスに活かしたりするために必要不可欠な基礎知識を身につけることができる。同試験の合格者にはジェロントロジー・コンシェルジュ[®]が与えられ、各種専門知識や資格を有している場合はワンランク上のジェロントロジー・マイスター[®]として登録される。2025年4月現在、コンシェルジュは8,597人、マイスター登録者は426人を数え、全国各界で活躍されている。Dia Newsの読者にもぜひご案内したく、この場を借りて紹介させていただいた。